

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	新潟県	市町村名	上越市	大学名	
派遣日	令和4年1月14日(金曜日) 13:00~17:00 13:00~14:00 事前相談・ご指導 14:30~16:15 全体研修会 16:30~17:00 事後相談				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 (派遣) / 遠隔				
派遣場所	上越市教育プラザ 研修棟 大会議室 住所: 〒942-8563 新潟県上越市下門前1770番地 教育プラザ内 電話: 025-545-9244				
アドバイザー氏名	内海 由美子 様 山形大学教授				
相談者	上越市教育委員会 (担当: 学校教育課指導主事 東條 善夫)				
相談内容	<ul style="list-style-type: none">・企業の外国人従業員の雇用促進により、日本語指導が必要な児童が年々増大していく小学校への支援方策について(企業、地域、学校・行政(教育委員会)の三者の連携について)・日本語支援が必要な児童生徒を受け入れるための組織・体制について・対象児童生徒の保護者への対応について(就学時の説明や学校との連携)・全国の自治体における支援体制の先事例の紹介				
派遣者からの指導助言内容	<p>1.外国人散在地域の子ども支援の課題</p> <p>(1)外国につながる子どもの数が少なく、1人在籍校が多い。</p> <ul style="list-style-type: none">・支援体制が築かれにくい。 <p>(2)子どもに関わる大人(学校教員、支援者)も少ない。</p> <ul style="list-style-type: none">・大人の連携が難しい(学校内、学校間、地域間) <p>(3)行政の施策が立てられにくい。</p> <ul style="list-style-type: none">・予算化が難しい。地域間、学校間で支援に格差が生じている可能性がある。 <p>(4)地域特性</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもが一人で学区外に通学するのは困難である。 <p>2.子ども支援の連携体制について</p> <p>(1)地域の連携について</p> <ul style="list-style-type: none">・国の方針:学校や地方公共団体と、地域の教育活動を担う様々な関係者との連携体制やネットワークの構築が必要である。 <p>(2)地域の子どもの支援ネットワーク(散在地域の場合)について</p> <ul style="list-style-type: none">・外部支援者(≒教育委員会派遣の支援員)の役割が重要 支援の経験は外部指導者という「人」に蓄積され、「地域」に蓄積されない。				

	<ul style="list-style-type: none">・「人」がいなくなればネットワークは維持されず、子ども支援のための連絡体制が組めない可能性がある。 <p>3.外国出身保護者との連携</p> <p>(1) 保護者関与の重要性について(OECD 2011)</p> <ul style="list-style-type: none">・学校と親との協働に関する研究成果として親の参加と子どもの成績との間には正の相関関係があると言える。 <p>(2) 親の関与の障壁となっているもの</p> <ul style="list-style-type: none">・言語、教育制度に関する知識不足、親の労働環境、家庭の資源と学習環境など。 <p>(3) 保護者の関与に向けて</p> <ul style="list-style-type: none">・就学支援懇談会（地域で）、外国出身保護者懇談会（学校で）、学校の二者面談に通訳者を派遣 <p>(4) かつての保護者で、今、支援員になっている人もいて、日本人支援者と対等な関係を築いて支援活動をしている。支援の人材としての可能性もある。</p> <p>4.全ての子どもと大人の学びに向けて</p> <p>(1) 多文化間能力を身に付けるために最低限必要なスキル (UNESCO2013:24)</p> <p>(2) 「やさしい日本語」の使い手になること</p> <p>5. 質疑応答より</p> <p>質問：学校現場ではどうやって受け入れて受け入れたらいいのかそもそもわからない。何かマニュアルのようなものはないのか。</p> <p>回答：山形県外国人児童生徒受け入れハンドブックを作った際、学校の先生、支援者、教育委員会の指導主事などさまざまな人が関わった。ハンドブックそのものも成果だが、それを作る過程で先生方にもいろいろな気づきがあったという感想が寄せられた。それは地域にとって財産になったと思っている。既存のものを上越市に合わせて編集するやり方でも構わないので、ぜひみなさんで作ってみてはどうか。</p>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<ul style="list-style-type: none">・日本語指導を必要とする児童生徒の増加に対して、現在実施している上越国際交流協会からの日本語支援員に教育委員会と連携して就学前指導という視点から「プレクラス」の指導・支援者という新たな役割を設定する。・特定企業と連携し、教育委員会における外国籍児童生徒の受入れ方法の見直しを図る。 特定企業と行政との受入れ手続きの役割分担を明確にする。 <p>* 以下については、今年度モデル事業として実施したものを検証し、より一層の質的充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none">・就学、編入時における日本語の「初期指導プログラム」の開発と実施 (日本文化やサバイバル日本語、学校生活についての集中講義)・企業の外国人従業員の雇用促進により日本語指導が必要な児童が増加していく小学校に日本語支援員の配置を継続するとともに、対象学校が行政や関係機関と協働体制で日本語指導に取り組み、外国出身者の受入れを支援する。 (日本語指導及び対象児童生徒の学校生活や学習支援、保護者との連絡業務)

(様式3)

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。